漢詩の風景(5)

石川忠久

D 春望　杜甫（とほ）

国破れて山河在り
（戦乱で）国都（長安）は破壊されても、山や河はかわらずに在る。

城春にして草木（さうもく）深し
城壁で囲まれた都市（長安）も春となり、草木が深く生い茂っている。

時に感じては花にも涙（なみだ）を濺（そそ）ぎ
時勢に悲しみを感じては、花にも涙を流し、

別れを恨（うら）んでは鳥にも心を驚（おどろ）かす
（戦乱による家族との）離別を恨めしく思っては、鳥の声にも心を驚かす。

烽火三月（ほうくわさんげつ）に連なり
戦乱ののろしは三か月間続き、

家書万金（ばんきん）に抵（あた）る
家族からの手紙は万金にも値する（ほど貴重である）。

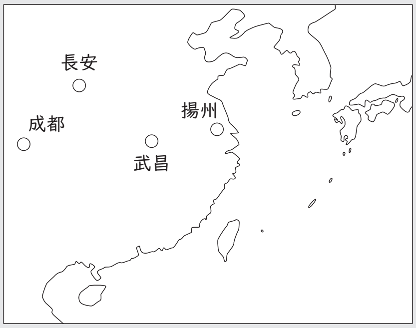
白頭搔（か）けば更（さら）に短く
白髪頭をかけば抜け落ちて少なくなり、

渾（す）べて簪（しん）に勝（た）へざらんと欲（ほっ）す
全く冠を留めるかんざしもさせないほどだ。

国破レテ山河在リ
城春ニシテ草木深シ
感ジテハレ時ニ花ニモ濺ギレ涙ヲ
恨ンデハレ別レヲ鳥ニモ驚カスレ心ヲ
烽火連ナリ二三月ニ一
家書抵ル二万金ニ一
白頭搔ケバ更ニ短ク
渾ベテ欲スレ不ざラントレ勝ヘレ簪ニ

長安

長安（ちょうあん）は唐（とう）の都であったが、七五五年からの安史（あんし）の乱で破壊（はかい）され、後に杜甫は長安を離（はな）れることとなった。



確認テスト

詩を読んで、問いに答えなさい。

(1) Dの漢詩の形式を選びなさい。

ア 五言絶句　**イ** 七言絶句
ウ 五言律詩　**エ** 七言律詩

〔　　〕

(2) Dで韻を踏んでいる句末の字すべてに○を付けなさい。

在　深　涙　心　月　金　短　簪

(3) Dで対句となっているものをすべて選びなさい。

ア 第一句と第二句　**イ** 第三句と第四句
ウ 第五句と第六句　**エ** 第七句と第八句

〔　　〕

(4) ——線部「山河在り」と対になっている箇所を書き下し文から書きぬきなさい。

〔　　〕

(5) 詩の内容に合うものを選びなさい。

ア 戦乱の中で、都市ばかりでなく山や河も荒れ果てている。
イ 戦乱が終わり、訪れた穏やかな春を楽しんでいる。
ウ 戦乱が続き、家族からの手紙は貴重なものになっている。

〔　　〕